

事例 32 愛媛大学と連携した天然更新調査

(四国森林管理局 愛媛森林管理署)



・愛媛県久万高原町 狼ヶ城山国有林

・(左) 天然更新調査対象地 (令和4(2022)年8月)

(右) 愛媛森林管理署と愛媛大学による天然更新調査 (令和5(2023)年9月)

愛媛森林管理署では、多様な森林づくりの推進に当たって、公益的機能の発揮に配慮するとともに、天然更新等の森林施業技術の活用に取り組んでいます。

同署では、ノウサギの被害により植栽したヒノキの半分が枯死した箇所で、隣接する広葉樹を母樹として天然更新した稚樹が多数みられたことを踏まえ、令和5(2023)年度に愛媛大学修士生(社会人特別選抜)の愛媛署職員が中心となり、愛媛大学農学部生物環境学科の准教授らと共同で天然更新調査プロット設定による天然更新調査を5回にわたり実施しました。その結果、更新完了の基準である3,000本/haを超える7,917本/haの高木性広葉樹が天然更新していることが明らかとなりました。

今後は、天然更新のモデル箇所として、現地検討会の開催や県主催の林業普及指導員の会議での説明等を通じて、地域の森林・林業関係者への普及に努めていきます。